

○議事日程

令和7年1月17日（金） 午前9時00分開議

日程第 1・議案第 4号 第六次開成町総合計画基本構想及び前期基本計画を
策定することについて 【質疑・採決】

○本日の会議に付議した事件

議事日程に同じ

○出席議員（11名）

1番	清水	友紀	2番	吉田	敏郎
3番	石田	史行	4番	井上	慎司
5番	武井	正広	6番	星野	洋一
7番	今西	景子	8番	寺野	圭一郎
9番	佐々	木昇	10番	山下	純夫
12番	山本	研一			

○説明のため出席した者

町	長	山神	裕	副	町	長	石井	護														
教	育	長	石塚	智久	参	事	（兼）	岩本	浩二													
参	事	（兼）	山口	哲也	企	画	政	策	課	長												
参	事	（兼）	中戸	川進	二	地	域	防	災	課	長											
参	事	（兼）	中戸	川進	二	財	務	課	長	高島	大明											
参	事	（兼）	中戸	川進	二	環	境	課	長	高橋	清一											
参	事	（兼）	中戸	川進	二	環	境	課	長	高橋	清一											
保	險	健	康	課	長	土	井	直	美	こ	ど	も	課	長	田	中	美	津	子			
都	市	計	画	課	長	柏	木	克	紀	都	市	整	備	課	長	井	上	昇				
産	業	振	興	課	長	中	村	睦	会	計	管	理	者	（兼）	出	納	室	長	石	井	直	樹
参	事	（兼）	田	中	栄	之																
学	校	教	育	課	長	田	中	栄	之													

○議会事務局

事 務 局 長 遠 藤 直 紀 書

記 佐 藤 久 子

○議長（山本研一）

皆さんおはようございます。

ただいまの出席議員は11名です。定足数に達しておりますので、これより令和7年開成町議会1月随時会議第3日目の会議を開きます。

午前9時00分 開議

○議長（山本研一）

早速、本日の日程に入ります。

日程第1 議案第4号 第六次開成町総合計画基本構想及び前期基本計画を策定することについてを議題とします。

本議案につきましては、昨日までに基本構想及び基本計画の第7章までの質疑が終了しておりますので、これより星マークの将来都市像の実現に向けた行政経営の質問を行います。

なお、質問の際は、第六次開成町総合計画案の提示を明示し、簡潔にお願いいたします。

それでは、基本計画の星マークの将来都市像の現実に向けた行政経営について質疑を行います。ページで示しますと、117ページから131ページになります。

質疑をどうぞ。

8番、寺野議員。

○8番（寺野圭一郎）

8番、寺野でございます。おはようございます。

ページで128ページ、持続可能な財政運営のところ、ひし形の4つ目、ふるさと納税等々のお話を書いてあるところになります。

昨年の12月20日に、町長も御存じかと思えますけれども、令和7年度の税制大綱が出まして、私、一般質問と質疑の中でもいろいろお話を伺っておりますけれども、企業版ふるさと納税が今年度で終わってしまうと、当時はお話しさせていただいたのですが、条件付きではありますけれども、3年間延長をするという方向に今なっております。

そこで、この文言の中にはふるさと納税としか、当然入っていないのですが、文言を追加してほしいとは思っておりませんが、町長の意気込みというか、考え方をお伺いしたいと思います。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

おはようございます。お答えいたします。

企業版ふるさと納税に限ってということで承りましたけれども、引き続き全力を挙げて、財源確保のため、またこの制度の趣旨にもものっとり、企業にとっても、社会課題の克服であったり、地域への貢献という、俗に言うCSRにも資する制度だと思いますので、ウィンウィン、そしてその課題を克服、もしくは事業の推進にお

いてメリットを享受いただく町民の皆さんも含めれば、三方良しというふうなところを目指して、鋭意取り組んでまいりたいと思います。

ちなみに令和6年度に関しては、今日現在で10社ほど、御協力いただきまして、私の考え方からしますと、まちづくりのパートナーとして、長年にわたって開成町のまちづくりにお力をお貸しいただくと。お力というのはもちろん、資金面だけではなく、ノウハウであったり、協働ということで一緒にその事業に参画いただく。そのような関係性をつくることがまずもって大事だという考えの下、今後も一生懸命頑張っていきたいなと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（山本研一）

8番、寺野議員。

○8番（寺野圭一郎）

ありがとうございます。強い意気込み分かりました。前にもお話をさせていただいたのですが、企業版ふるさと納税等々していただいた企業様と、その町との連携、今、お話でもございましたけれども、パートナーシップを強めていっていただければと思います。

以上です。

○議長（山本研一）

ほかに。

5番、武井議員。

○5番（武井正広）

5番、武井です。129ページになります。持続可能な財政運営を行うために、「町民ニーズに柔軟に対応できる財政運営を行えるよう、効果的・効率的に事業を実施するとともに、事業の選択と集中を図り、弾力性のある財政構造の維持に努めます」と、この記載は今までほとんど見たことがありません。

行政の仕事は、選択と集中ができにくく、新たな事業が増えていく状況だと感じております。職員の仕事量も年々増加していっているように見受けられます。この状況を変えていくためにも非常に大切な方針です。

全ての事業には住民が関係しておりますが、この中で、ぜひこの方針を大変な中でも進めていっていただきたいなど。それが次の開成町につながると考えておりますが、町長の意気込みを伺わせていただけますか。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

御質問ありがとうございます。基本的な考え方といたしまして、これもこれまでも何度か申し上げましたけれども、この総合計画に限らず、日頃から地方自治法でうたわれているとおり、最小のコストで最大の効果を上げる。これは個別の事業もそうですし、人件費等も含めた全てのコストのことを意味しますが、その基本的な考え方で進めていきたいと思っておりますし、事業の選択と集中という意味では、

これもこれまで何度か申し上げてきましたけれども、やはり1つの事業で複数の課題、もしくは事業の推進を図っていくと、これが効率性にも資すると思いますし、生産性の向上ということもつながると思いますので、そういった考え方も改めて徹底しながら十分取り組んでいきたいと思っています。

あと選択と集中という意味では、どうしても新しい取組は、特に新年度ごとに生まれてきますけれども、なかなかスクラップのほうはどうしても本当どうしてもなかなか難しい。なぜならば、それを御利用いただいている方が1人でもいると、スクラップというものは本当に難しい。とはいえ、やはり時代の流れとか、変化に合わせて、そこはもし、なのでしょうか、完全になくせるかどうかは別としまして、新しい形としてサービスを提供できるような、そういう考え方を持って、増えるばかりではなく、スクラップも意識してやっていきたいなと考えております。

財源につきましては、先ほど企業版ふるさと納税の話をしていただきましたけれども、また今後話が出るかもしれませんが、特に扶助費の増加傾向が今後も見込まれること、公共施設の老朽化に伴う支出、これは箱物のみならず、いわゆる道路、橋を含めたインフラも含めてですけれども、が見込まれる中で、より一層その意識を高く、健全性も求めながら取り組んでいきたいなと考えております。

以上です。

○議長（山本研一）

5番、武井議員。

○5番（武井正広）

ありがとうございます。ここの部分は、実は第六次総合計画の中でも一番大切なところではないかと考えております。

人口1万9,000人弱の中で、130人前後の職員の中で仕事をしているというところというのは、ある意味、少数精鋭の中でこの町全体を運営していくと言っていると私は感じております。

ぜひ、ここを職員の方皆さん同じ方向を向いて、進めていっていただくことが、次の未来の開成町につながっていくと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

以上です。

○議長（山本研一）

答弁はよろしいですか。

ほかに質疑はございませんか。

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

おはようございます。10番、山下純夫です。ページ数でいきますと130から131ページにかかる部分なのですが、広域連携というところで、当然ながらここに書かれている広域連携、積極的に推進すべき課題だと思うのですが、一昨日、異なる議案のところでも少し触れさせていただきましたけれども、広域連携になった中

で、開成町が、その中でやはりイニシアチブを取っていくということについて、どうしても選挙のタイミングのせいで、山神町長の能力とは関係のないところで、やはりキャリアの長い首長がイニシアチブを取るような立場になったりすることもあると思います。

ただ、開成町は、この近隣の中でも、南足柄市に次いで人口が多いという背景と、もう1つやはりそれぞれの共同で進めるべき広域連携の課題について町民の皆さんがしっかりと関心を示すということが大切だと思います。

ここのページに限っては、例えば、前半に、目指すべき状態の達成に向けた役割分担ということで町民の皆さんに担っていただきたいということと、行政が行うところと書いてあるのですが、このページを見ると、あまり町民の皆さんに担っていただきたい部分が見えてこない。ただ、やはり先ほど言ったように発言力の背景として、人口、人数とそれからもう1つ、どのぐらいの興味を持っているかということが非常に大事になってくると思うのです。ですので、広域連携に係る部分について、こういった形で情報発信をしていくのか、そこについて少しお話をいただければと思います。

○議長（山本研一）

副町長。

○副町長（石井 護）

広域の関係につきまして、どのように情報発信していくかというような御質問かと思いますが、具体的に言いますと、それぞれ今、先ほど御質問の前半にあった広域でやっているごみ処理の関係の部分等言えば、基本的には、その場合は1市5町でやっていく中で、事務局的部分は、各市町から全部の市町ではなく、交代で職員なりを派遣をして、事務局でやっている。ですから、その発信、まず一義的には事務局が発信をして、なおかつ計画案については、パブリックコメント等を実施して、過日行われた説明会ですとか、そういう形、町民参加ゼロだったということはありませんけども、していくのが基本かなと。プラス、それぞれの市町もホームページ等で公開をしていくのですが、そこには若干の程度の違いがあると思いますが、往々にしてこれまでの広域の部分もそうですけど、いいか悪いかはちょっと別ですが、ある程度の統制的な決まりというか、現時点というか、この段階においては、基本的にここまでの公表が望ましいのではないかとか、そういう調整はしてございます。よいか悪いかという論議はしたのですが、事業の事柄によっては、意外とその利権的な部分が絡むものもあったりなどしますので、そういうものを見ながら、統制をする指令的な部分はやはり広域のその事務局なりが行っていくと、そういう構図で、そこを見いだしてしまうと、なかなかその話もまとまってこなくなる可能性もございますので、そういった形でやっております。

おっしゃられるとおり、本質的なのというか、これはやはり住民の方がどれだけ関心を持つか、あるいは持ってもらうか。という部分は、私ども非常に大切だと思っていますので、一番あるのは、できてしまった後に、そんなことは聞いていないと

か、往々にしてある事柄なのですけども、そこら辺のところは気をつけるようにやっていきたいとは思っております。ちょっとお答えになったかどうかですが。

○議長（山本研一）

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

副町長の御答弁にしては若干歯切れが悪いかなと思ったのですが。一定のレギュレーションの中で、ここまではというところがタイミングがあって、発信できる、できないというのは、我々も先に情報もらう立場として同じような部分ですので、重々承知しているつもりです。その上でやはり広域でやる中でも、各市町によって、その影響度が違うところがあるので、そこについては、そのタイミング等々は守りながら個別の発信をしていただいて、最終的にはその広域の中でイニシアチブある程度取れるような形をお願いできればなというところが質問の意図でございました。

同じようにこうした町民が担うというところで、少しページ飛びますが、121ページのところで、行政の自治体DXの推進というところについてなのですけども、一番この項目の主な取組の下、「町民の利便性向上を図るとともに、民間事業者のサービス創出を促進するため、本町の保有するデータのオープンデータ化を進めます」とあります。

この25ページの基本目標の3というところには、シビックテックプロジェクトということで、もちろんそのシビックテックプロジェクトの一番最初に、オープンデータ化というものが一般的には出てくるので、当初このオープンデータ化を進めるという文言が草案で御説明いただいたときにはなかったもので、その点についてもちょっと確認をさせていただいたかと思うのですけども、やはりこちらの町民に期待する役割のところ、シビックテックを掲げておりながら、こちらには当初載っていなかったというところのちょっとちぐはぐさというか、部分が気になるところです。

あともう1つ、このオープンデータ化を進めるに当たって、どのぐらいのタイミングで、いつまでにオープンデータ化を完了することを目指すのか。明確な目標等があれば、回答いただきたいと思います。

○議長（山本研一）

参事兼総務課長、

○参事兼総務課長（山口哲也）

それではオープンデータの関係で、私からお答えをさせていただきます。

例えばオープンデータ、政府や地方自治体、公共機関が提供する公共データやGISデータといったものや気象データなど、誰でも自由に利用や再配布が可能なデータのことということになってまいります。現在県を通じて、学校や公園、図書館といったような情報についてはデータを公開しているといったところがございます。今後も、広域での対応がより効果的であると考えておりますので、引き続き県に取りまとめを働きかけることや、また町独自のデータの公開というのも検討し

ていきたいと考えております。

今時点では、いつまでにどのようなデータ数をというのは、具体的に目標を持ち合わせておりませんが、町民の皆様や民間企業の方が使いやすいような、そういうデータについては公開を検討していきたいと、このように考えております。

○議長（山本研一）

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

私、以前の一般質問の中でも、データの出所の説明をするときに、町のデータはPDFでそのまま加工ができず、一旦県まで行って探してきて、このデータを引っ張ったというような話をさせていただいたことがあります。やはり県の中に入れてしまうと、比較ができやすい。ほかと比較できるというメリットはあるものの、やはり埋もれてしまうということもありますし、できれば自分のところのデータは自分の町のホームページから取りたい。それによって様々情報の取りやすさ等々で町民の皆さんから今まで以上に御提案をいただける可能性も広がると思うので、ぜひ本格的なデータのこの町のホームページにおけるというか、町の中できちんとオープンデータを多くの方がアクセスできるような状態を構築していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（山本研一）

参事兼総務課長。

○参事兼総務課長（山口哲也）

山下議員のおっしゃられたとおり、町独自でもそういったことを検討していく段階にあると考えております。

先ほど申し上げましたが、町民の皆さんや、企業の方が使いやすくて、非常に地域に興味を持っていただけるような、そういったデータというのは本当に必要だと考えておりますので、町独自での公開というのも今後検討してまいりたいとこのように考えております。

○議長（山本研一）

ほかに質疑はございませんか。

2番、吉田議員。

○2番（吉田敏郎）

2番、吉田です。ページ数128、129の財政運営について、ちょっとお伺いします。

現在、開成町いろいろ町民税をはじめ、そういうものの徴収に当たりまして、この中に現況として、町債残高増加傾向にある。そして課題として、義務的扶助費が非常に増加してくる。非常に弾力性が乏しくなってくるということと、また目標の中に、町税の適正な賦課決定を、賦課をしっかりと収納率を上げていくとありますけれども、その中で都市計画税ということに対してお考えはなかったのかちょっとお聞きします。

○議長（山本研一）

副町長。

○副町長（石井 護）

御質問の都市計画税については、結論から申し上げますと、今の現時点では全く議論はしてございません。ですが、基本的には議論すべきことかなとは思ってございます。区別というわけではないですけど、市町村の市レベルであればほとんどの市が、もう市街化区域の固定資産税の何%という形で徴収はしていると思いますけれども、開成町の場合、人口も増えていますし、御案内のとおり、土地区画整理事業、あるいはそれに付随するインフラ整備等をしておるわけですので、そのところは検討を始めてもいい時期かなとは思っていますが、現時点では、その予定は明記するほどのレベルには達してないということで御了承いただければと。

○議長（山本研一）

2番、吉田議員。

○2番（吉田敏郎）

開成町にとって、非常に今、町税も上がっているしということで、当面、そういうものではしっかりとできていきますよというような感じだと思いますけれども、この都市計画で確かに副町長に言うとおおり、そういう市レベルでは、結構の自治体では、かなりの自治体でそれを使っているところはありますけれども、開成町、やはりこれから駅前通り線土地区画整理事業も始まります。そういう計画があります。そして、そういう方に町民の方にもよく分かっていただく。そして、こちらの都市計画税、今さら私が言うまでもありませんけれども、自治体、開成町自体、独自で条例もつくれるし、条例をまたつくらなければいけないし、また、固定資産税の評価額の0.3%以下と決められておりますけれども、金額としては開成町の中では固定資産税のかなりの金額が税収があります。そして、そういう町民の皆さんのそういう前向きな気持ちをより以上に持っていただく意味でも、この都市計画税を皆さんに少し負担していただくということで今言わせてもらいますけれども、副町長からそういう形で、考える時期もあるかなという答弁をもらいました。

ぜひこの都市計画税ということを考えていただいて、確かに町民に対して負荷が生じることは考えられますけれども、ぜひそういうことを、しつこいようだけれども、改めてそういう気持ちで考えていただきたいということで、もう一度答弁お願いします。

○議長（山本研一）

副町長。

○副町長（石井 護）

先ほどの答弁のとおりですが、こういった場で、結論、やっていきますですとか、いつからというところについては、今のところ全く検討してございませんので、申し上げる、回答できることはないのですが、基本的に繰り返しになりますけど、時期としては検討していくべきかなとは思いますが、基本的に固定資産税、今現時点で

は、大体ざっくり15億円ほどの税収ですから、それに0.3%というのが大体どのぐらいかということが出てきますので、そのこの部分の税収額も見た中で、いろいろ検討はしていきたいと考えてございます。

○議長（山本研一）

2番、吉田議員。

○2番（吉田敏郎）

答弁ありがとうございます。弾力性が乏しくなるということもこういう形で町から言っていますので、そういう意味でこういうことがあってもいいのではないかとということで、質問させていただきましたので、これからも町民のさらなる福祉の向上をよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（山本研一）

答弁はよろしいですか。

ほかに質疑はございませぬか。

（「なし」という者多数）

○議長（山本研一）

それではないようですので、将来都市像の実現に向けた行政経営に関する質疑は、ここまでといたします。

以上で基本計画についての質疑が終了しましたが、ここで基本構想から基本計画までの全般につきまして、質疑がありましたらお願いします。質疑をどうぞ。

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

1番、清水です。基本構想の人口と基本計画の人口に係るところで質問させていただきます。最後にどうしてもここがと思ひましたので質問させていただきます。

人口2万人と上げる根拠の御説明の中で、まずその説御説明の筆頭に、駅前通り線土地区画整理事業が進み、その一帯の計画人口が1,460人、ここ私昨日1,600人と申し上げたと思ひますので、訂正させていただきます、が挙げられました。そのお話に続きまして、これまでの開成町の成長過程を見て、民間の推定値、また合計特殊出生率、子育て施策、その多くの施策が挙げられましたが、全領域の施策で人口増、ここを目指していくというよりは、最初に計画人口のお話があったと思ひます。

審議会の方々も、町側からこの計画人口の数字、具体的な数字を上げられれば、中にはそういうものかと、その専門家ではありませんし、その1点に疑問を呈する方は、いらっしやらなかつたかもしれませぬ。

しかし、駅の、この話は西側ですけれども、今ある東側の酒匂川です。そちら側にそびえるパレットガーデンというマンションがございませぬ。御想像いただく、あれは4棟の大きな建物でして、どのぐらいの人口かといひますと、合計で1,076人です、1月現在。敷地面積は、この駅前土地区画整理事業の言及されている商業地約3ヘクタールとほぼ同じです。つまり、駅前の周辺、新たに開発される地元

の方々がコミュニティを築くところに、パレットガーデンの約1.5倍の住民が入る大型の建物、マンションかどうか分からないということでしたけども、建物が密集するという捉え方です。そういう可能性があるから、人口2万人なのだという御説明だということです。

あくまでも土地計画上の話であって、という御答弁もありましたけれども、なぜここを疑問視するかというと、この計画だけではない。この事業は既に始まっていることであるし、この事業に対して、町長も折に触れて御答弁されています。計画人口をそのまま御説明の最初におっしゃる。そのまま載せるということに、まず疑問がございます。

総合計画を策定するに当たり、数々のアンケートですとか、ワークショップを行われていました。町民はこの町の自然環境を大事にした上で、発展を望むという声が非常に多かったり、この地区に関しましては、開成駅を降りて、山並みが見えて帰ってきたんだと、ほっとするという声があったりという背景がございます。

町長は、就任当初から駅前に関しては地権者さんの御意向を重んじながら、町民と協議を重ね、「ALLかいせい」で進めていきたいとおっしゃっています。

町長にお伺いいたしますけども、人口2万人を目指す。それはそれで、そこだけ見ますと開成町は成長しているし、各課が努力して、2万人を目指していく。それは非常に勢いを感じるものですけども、根拠として、計画人口が1,460人です。このように町民の皆様に対して掲げることに違和感は抱かれぬのか。その御所感やお考えを伺いたいと思います。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

まず人口に関してなのですけども、全国的に人口減少、少子高齢化、人口減少が著しく、多くの自治体はその人口減少、すなわち税収減という大きな課題を抱えていることは御案内のとおりだと思います。開成町は、先人の皆様方の御尽力により、民間企業の皆さんに投資をいただくことにより、今日恵まれた環境にあるという状況にありますけれども、やはり引き続き発展を目指せる環境にある中で発展を目指すべきであると考えております。それはほかならぬ町のにぎわい、コミュニティの維持、税収増のためです。

一たび、スパイラル的に人口が減少し始めますと、小中学校幼稚園の統合であり、自治会の存続であり、様々な課題が顕在化すると思います。いずれはそういう局面を迎えることにはなると思うのですけども、それができるだけ遅く、軽度に済むところを目指していくべきだと思います。

その中で、まず駅前通りの計画人口なのですけども、これは一番というか、大事なのは、県に事業認可をもらうに当たって、将来のまちづくりの計画ですねそれを事業を認可するために、開成町が今後も人口が増えていくという計画をお認めいただくに当たって、置いたといいましようか、算出された額であり、数字であり、

それをお認めいただいたという経緯がございます。そして今後、南部第3地区も同様の経過を踏んでいくことになると思いますけれども、それとこれと別というわけではないのですけれども、町からそこに1,460人の人をありきというか、どのように配置していくかということは、ある意味先ほどもありましたけれども地権者の皆さんとの話合いであったり、これから踏まなければいけないプロセスがありますので、1,460人というものは、私が就任前に当然決まったものではありませんけれども、それは県に対して事業認可をもらうための中において、そのような内容になったということで、私もそれはその路線に沿って、方向性に沿って、まちづくりを進めていくのが責務だと思っておりますけれども、その数字が完全にありきという理解ではないということは御理解いただければと思います。

ただ、同時に申し上げたいのは、冒頭に申し上げましたけれども、やはり人口増、税収増というものの重要性というものは改めて、私も含めてですけれども認識していかなければいけない局面であると思っております。

以上です。

○議長（山本研一）

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

その数字ありきではないというのは、もちろんのことです、県の資料を拝見しましても、やはりあくまで文は開成駅前通り線沿道については中密度利用を図るですとか、産業の立地動向を踏まえながらという前提はありますが、土地の高度利用を促進するということがあるので、1,460人、それだけ増えると、もう2万人はもう達成になるので、そこだけを考えているわけではないというのは、先ほど多くの施策も説明の中に含まれたということで承知してございます。その根拠となる基本計画のほうでは、項目が6、これは6-1の都市形成91ページになります。

令和10年という目標に定められているところは、この事業に関して言いますと、土地区画整理事業が終了して更地になるという予定の年です。しかし、目標収益ですね。その35%が含まれている。これはなぜかと昨日質問したところ、御説明の中では、居住地に住み始める方もいらっしゃるというところから、納得したところでは。

ただ、主な取組として、整備を図る。整備の推進ということが繰り返しここに記載されてございます。これは土地計画上、県に認可された計画ということで、今、町長がおっしゃったのはもちろんですけども、だから、それがイコールこの取組に整備が入るということでは結びつかないのではと思っています。8年計画の中の人口2万人が、この前期の計画4年間、前期4年間の中で新都市拠点の整備がされるのか。土地区画整理事業がまず終了して、更地になったところではないのでしょうかというところです。

今のところ、町長が、もう就任当初から繰り返しおっしゃってきました。「ALLかいせい」ということ、そして議員も複数の議員が、駅前の事業どうなっている

のですかと質問したところ、それは町民の皆様との協議を経て決めていくことです。という御答弁がありました。やはり「ALLかいせい」ということで、そのようにまちづくりを町民皆様を巻き込んで、みんなですていくのだということを、議員としても、そのような流れになるのだと理解していたところです。

昨日の御答弁でも、課長からも、しっかりと話し合いを進めていくですとか、副町長も、町の考えを持って、地権者さんに説得、言葉に語弊があるかもしれませんが行うということでした。そして繰り返されている、この町民との協議という御答弁、その始まりが、この整備をする。整備を促進するという取組からは見えてきません。この総合計画を基にして、今後、事業計画が進められていくのですけども、今この整備をするということを認めますと、どこにこの町民との協議、町民とのまちづくりというものが含まれていくのだろう。それは非常に重要なまちづくりの取組であると思います。

この四角、1つ目、2つ目ですね。しかも優先度が星3つになっています。こちらの中に町民の存在が含まれるということは、地権者さんも町民ですけども、10名程度、1万8,700人を巻き込んでいくのだというところが、ここに含まれるのだという、あとは読み取れないのですけれども、そちらの御認識、お考えを伺います。

○議長（山本研一）

参事兼企画政策課長。

○参事兼企画政策課長（岩本浩二）

すみません。1つ数字の整理といいますか、推計人口の考え方の話を整理させていただきたいと思いますが、いたずらに今の1万8,700の人口に、1,460の計画人口を乗せて2万人を導き出しているということではありません。

それと人口推計についても、専門家の意見も聞きながらというようなことと、あと国の社会保障人権問題研究所、これの人口推計の開成町のピーク人口は1万9,208人となっています。

今、駅前周辺の区画整理事業というような特殊要因、あとまた自然増を増加傾向に様々な政策で向かって、政策を進めていくというような流れの中で、国のシンクタンクの1万9,200人、その800人の差、これをその様々な政策で、区画整理事業、これは加味されていませんので、そういうものを整理しておいて、2万人という話が著しく駅前に頼った人口目標とは我々としては考えてないというところを前提としておいていただければと思います。

以上です。

○議長（山本研一）

副町長。

○副町長（石井 護）

それと後半の部分の御質問ですけども、基本的にこれは、駅前通り線土地区画整理事業の計画の全て話ではなくて、総合計画ですから、しかも基本計画ということ

であれば、あらあらの方向性というか、あらあらという表現が好ましいかどうかは別として、全体的な方向性、その下に実施計画があって、何々事業という構造ですよというのは、これまでも何度も御説明させていただいたと思いますけれども、その中で観点からすれば、この基本計画レベルでいくと駅前通り線土地区画整理事業を進めていくのか、進めないのか。そういう話だと思います。そこにそのちょっと御質問についての対応できた回答になるかどうか、ありますが、どういうやり方でやるのかとか、住民の意見、どこまでいくのか、1万8,700人、一人一人全部意見を聞くのかとか、そういうことに関してはちょっとお答えはしかねるかなど。進めるべきではないという御質問であれば、それなりの回答は当然いたしますけれども、町としては、行政側としては、駅前通り線土地区画整理事業を進めていく。しかもこれは40年前に一旦、検討にお約束をして、しかもそれなりの市街化区域編入されたという中で、実際にその制度の中で、地権者の方も土地利用を進めてもうしている場所ですから、そういった部分から考えての御質問かなと思いますけれども。

町としては、方法はいろいろあるかと思いますが、4年間、あるいは事業計画は令和15年ぐらいまであるかと思いますが、それにのっとなって整備を進めていくということでございます。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

私からもおおむね回答としては、課長の岩本と副町長からさせていただいたとおりなのですが、まちづくりにおいて、これ駅前通り線に限らず、町民の皆さんの声に耳を傾けていくという姿勢は、今までもそのようなスタンスでやらせていただいたつもりでございますし、今後もそのようなスタンスでまいります。まちづくり町民集会も8年ぶりに14か所で開催させていただいたり、町長への手紙という制度を、昨年4月発足いたしまして、そのようないろいろな窓口も私としては新しく設けているというつもりであります。スタンスとしてはそのようなことを、今後も維持してまいります。

ただ1点だけ、ややバイアスががかかってしまっているのではないかなと思われている点につきましては、私が皆さんの声をという点に関しては、もちろんまちづくり全部なのですが、駅前通りに関しては、複合施設に関して、その中身をどうするのであるとか、図書館に関して、どのような図書館なのかということに関して特に皆さんの声を聞きたいし、聞いてまいりたいと思っております。

それがもちろんまちづくり全てに関して、傾聴の姿勢は常に重要視していくのですが、例えば、昨日もありましたけれども、個人の地権者がある。地権者の意向がある。それに対して町の考え等をどこまで説得、納得できるとかということに関しましては、いわゆる副町長からも一部そのような趣旨の回答ありましたけれども、全員の声を聞いて、全員の声を反映できるかどうかとかという意味において

は、それは現実的にはとても難しいと思いますし、そこは限界も踏まえながら皆さんの声をしっかりと耳を傾けていきたいということは改めてお約束しますが、駅前に関しては、複合施設に関してというところを重きを置いておったところが、町全体と、やや曲解されてしまっているようなおそれも感じましたので、ちょっと一言申し上げさせていただきます。

以上です。

○議長（山本研一）

1 番、清水議員。

○1 番（清水友紀）

基本計画レベルという御答弁がありました。こちらは総合計画、私の質問の中で、駅前通り線土地区画整理事業自体を反対するような御意図であれば、そのように聞き取れましたでしょうか。反省していただきたいと思います。

私が重きを置いているのは、やはり「ALLかいせい」、町民の声を聞いていくということです。

今、それは複合施設について、主なものだったということですがけれども、今この事業、基本計画ではありますけれども、しっかりと事業名も明記してあって、しかも整備していくということが主な取組に書いてあるのです。

町民の存在はここに書いてないまま、整備していく方針が示されています。もちろんこの事業を推進していくことは、主な取組でいうと1つ目です。駅前通り線、事業名が書いてあり、都市基盤の整備を図ります。優先度3つ、こちらは理解しております。

問題視しているのは2つ目です。新都市拠点地域の区域区分を見直すことにより、新市街地の整備を推進します。

1つ目は、整備を図るインフラの話も出ましたけれども、土地区画整理事業、今後4年間では更地にするに当たり、そしてその中に建物を造るに辺りインフラ整備も含まれるでしょう。

しかし、2つ目のこの新都市拠点地点の区域区分を見直す新市街地の整備、検討や町民との協議ではなく、整備を推進しますと記載がございます。これにつながる事業計画というのに整備、具体的な工事みたいなところをイメージしまして、ここでの町民の存在は特に感じるできません。過去の御答弁、今、町長からそれは複合施設に重きを置いたとありますが、今この事業大きなイメージが、令和3年に広報かいせい一面に載りました。それについては私だけではなく、議員が質問したところ、それは将来予想図と言えるのかと思うが、これは最終的に町民の皆さんと一緒に決めていくことだと御答弁されていらっしゃいます。

また、個人的な思いとして語っていただいたのは、無機質過ぎるのは望まない。開成町のよさであります、高い空やせせらぎ、まさに人と自然が調和した田舎モダンな町という部分も残したいとお話しされていらっしゃいます。

このように繰り返し町民の声を聞くというのは当然のように複合施設だけではな

い、この駅の玄関口を開成町民が、私は1万8,700人の一人一人とは言及していませんし、そこまでは思っていない。これまでのワークショップやアンケートを含めても、それは部分になってしまう、少ない割合になってしまいますけれども、様々な立場の方々からの声を聞くという意味で申し上げておりました。

そういうところがここに反映されていないと思ったのですけれども、やはりここを記載があると、後々8年間の間に、これを基にした個別計画が策定されて、また県にも示されて、町民皆様が今後4年間の関係人口、ここでは1,460人がここでは考えられると思うのですけれども、それを目指す新都市拠点の区域区分が見直される整備に納得したということになります。このところはやはり整備そのものではなく、町民との協議をまずは重んじる。まずはビジョンを考える。それはこの町の事態を、公共事業ですから、どのような町にしようというのは、やはり決めるのは、地権者さんの御意向が大事だとしても、決めるのは町民だと思います。町民が納得した総合計画である文章であるはずです。なので、こちらを、この主な取組の2つ目のところ、そちらをやはり整備ではなくて、町民との協議を重んじるような書き方や、修正というお考えはないということ、まずお考えを伺いたいと思います。

○議長（山本研一）

副町長。

○副町長（石井 護）

それではお答えいたします。まず最初に反省をしていただきたいというような誤解というか、そういう御質問があったのですけれども、そういう意味で言ったわけではなくて、議員御質問その整備という言葉に何か非常にこだわりというか、その辺の、あるいはそのこの見解の若干の食い違いというか、そういう部分もあるのかなと思ひまして、また議員が前半おっしゃられたような部分の誤解ということがあるとすれば、これは申し訳ないと思います。

ただ、住民の意見という話になってくると、どういう方法で、どこまで効くのか云々となると、多分押し問答的な、幾ら話してもという中であれば一致する部分もあるかもしれないのですけれども、そういう部分で言いますと、基本的にその土地区画整理事業ということ自体が、既に繰り返しますけど、40年前に都市計画決定されています。都市計画決定するということは、それなりの公聴会なり、何なり、法律的な手続を踏んで、土地区画整理事業しますよという形で位置づけをされています。都市計画道路ですとか、そういうものも全てそういう形と一緒に。ただ、それは40年前ということはあったかとは思いますが、ただそれにさらに、先ほど町長が申し上げた事業認可を取らなければいけない。事業認可を取るに当たっても、これはそれなりの必要であれば公聴会の実施ですとか、質問の受付ですとか、そういう手続を踏んでではないと、事業認可もらえませんが、当然そういう手続を踏んで事業を今行っている。

ですからそういう意味で言えば、私自身もなかなかそういう言い方はしたくはな

いですが、法律的な部分からいえば、手続的には基本的にそうはならないように進めているというのはもう言い切れる話で、そう言うしかないのかなと。

あとその繰り返しになりますけど、住民の意見云々という部分をどういう形で、どの程度でというのは、議員のいい意味でのこだわりの整備という言葉に対しては自分、自分という行政的なその整備という言葉の中にはそういう部分も当然含まれている話であって、ただそのインフラの、そのちょっと言われた工事をするとか、それだけが整備ということではなくて、制度をつくったり何かすることも、基本的に我々は、業界用語でもないと思いますけれども、基本的整備するという言葉は使わせてもらっています。そのハード的な工事をするとかというだけではなくて、仕組みですとか、こういう対応をしていくというものについても、普通に整備をするという言葉を使っていますので、その辺のところは御理解をいただきたいと思えます。

言われるとおり、整備をすると書いてあるのだから、もうその意見など、極端な話ですよ。別に何も聞かずに、工事をどんどんハード的な工事を進めていくのだということではないです。いわゆるソフト的な部分も当然含まれていて、土地区画整理事業そのもの自体を整備を進めていくという意味での記載ですので、もう一度そこから辺を御理解していただきたいと思えます。

○議長（山本研一）

ほかに質疑はございませんか。

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

10番、山下純夫です。全体に関わることなのですが、事例としては、例えばこれは112ページ、地域農業の担い手への農地の集積率というところで、現在、現状値7.3、目標値10ということでここに記載されていますが、これ12月の状況では、それぞれ10と15だったのです。私過去の予算質疑でいただいた数字からすると、にわかに少し信用し難い、確認をしてくれと申入れをしまして修正されました。

修正をされたということはいいのですが、もともとの数字、これはどこから引っ張ってきたのかというのは、本来こうした様々な数値目標を掲げられていれば、同じデータベースから例えば町内役所の中でだけ使っている何年度の数値みたいなものがあればそこから引っ張ってきていただければと思うのですが、まずその部分が個々に違うのかなというのと、これ表記ずっと見ていただくと、小数第2位まで書いてあるものもあれば、10%、小数点以下、切ってあるものも、少数第1位までのものもあります。

これを見たときに、人口2万人を達成するためにそれぞれにブレイクダウンして目標を考えましたということではなくて、何か各課に、この基本計画のために振って、それを資料として取りまとめた。という印象がどうしても拭えない部分があります。

ですから昨日も同じようなことで少し細かく言っておりますが、この数値を立てるときに、全体としてどういうところの資料を持ってきて、こうした数値を決定されているのか。それとさっき言ったように、けたがそろっていないようなところ、この辺は、全体として縦串だけではなくて、横串を入れるような作業は当然されているとは思いますが、いま一度その辺の施策のプロセスについて、数字の件について、少し御説明をいただければと思います。

○議長（山本研一）

参事兼企画政策課長。

○参事兼企画政策課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。指標をつくるに当たって、データベースとして、まとまったものの中から引用してくるみたいなことは、基本的には様々な分野の中で統計等がそれぞれある中からの数字になってくると思うので、そこを全体でまとめて、同じデータベースでという話はちょっと現実的には難しいのかなと思います。そこは重々承知をされていることとは思いますが。

ただ、策定過程の中で、当然見直しも含めて、現行計画の各課とのヒアリングは十分に回数重ねてきていますので、先ほどの修正云々というところはありませんが、そこはある意味、目線の違いもあるでしょうし、議員からの御指摘に基づいた修正みたいなところの必要性に応じて数字を変えさせていただいたところは、これまでも様々なその指標の立て方ですとか、指標の立て方に対する数字の取り方みたいなことは、各課とのヒアリングで十分調整をしてきたことですので、ただ小数点以下の数字がそろっている、そろっていないというところは、そこはそれぞれの引用のデータベースのところの数字で、より具体的な数字があれば、それを採用したということですし、ですので、特に2万人を目指すために、そのブレイクダウンしてきたというところの大本の考え方は、そこは一貫してやってきているつもりです。

ただ、そこを各課でその数字指標をつくる時に、それぞれのデータベースの考え方そういうものが多少全体のばらつきとして起こっていることは認めざるを得ないと思いますけど、ただ、そこが大きな影響を持っているとも考えておりませんし、もし必要な、統一感を出すことが必要ということであれば、ちょっと必要性に応じてというようなことになりますけれども、そこは今後の考え方の中で、後期の見直しみたいなところで反映させていければいいかなとも思いますけれども、ですので、特にいいかげんな数字を持ってやっているというようなことは当然さらさらございませんし、そこは何か山下議員でいろいろ御指摘を、委員の意見交換会の中でもいただきましたけれども、そのような御指摘のところは真摯に受け止めて、特にその数字にはきちんとこだわって、やってきているというのは2万人に対する達成目標に到達するための指標として、こだわってやってきておりますので、そこは御理解いただければと思います。すみません、長くなりまして。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

例えば、この担い手の集積率10というのは、切りがよすぎるといふようなところが、むしろいいかげんと捉えられてしまっている。もしくは2万人とか、というのはあるのかなと思いますけども、少し説明させていただければなと思います。

昨日も、山下議員からそのような御指摘いただきましたけども、私はデータというものは非常に重視します。そして根拠ということも大事にします。ゆえに就任した年の7月1日に財務課に企画班というのを設けて、いわゆるその根拠、例えば小児医療費無償化、効果、他自治体も含めてどのぐらいあるのかなのか、給食費無償化、目的によりますけども、ほかと施策と比べて効果があるのかなのか。その他もろもろ、科学して、データを持って政策の中身を決めていこうという趣旨で発足しました。

同様に総合計画においても、やはり数字の根拠はとても大事だと思います。これはどちらかというと、こういう効果があるから、こういう政策というよりは、説明責任、主にそういう意味合いかなと理解しています。

その意味で、例えば実際こういうことがありました。星の数も、人によって、課によって、基準は1つのはずなのですが、大分違いがあります。

目標数値も、私の尺度で上下を測ると、すごい積極的だなと思う数字と、いやそうではない。逆に、ちょっと消極的過ぎないかと、いわゆる達成確率が高いと思われる自分の尺度です。今思われるものをばらつきがありました。

そこで非常にあまりこそ積極的とは見えなかった数字に対し、思わずこれは目標とは呼ばないとか、そういう話も正直しました。

その一方で、その数字を根拠の資料がめちゃくちゃ多く、そこまでやらなくてもいいだろうぐらいなものが用意されていました。要は数字の根拠を説明責任を果たすために、数字の根拠を立てるために、特により多くの労力なり、関心が割かれてしまっているような、人によります、課によりますけども、事例がありました。

結論として何が申し上げたいかといいますと、やっぱり根拠、データも大事なのですが、やはり私にとっては、町民の皆さんの幸せのため、町のたゆまぬ発展のために何をやるのかやらないのか、行動するのকাশないのかのほうで、その2つの比較論でいけば、大事であると。よって、細かなところは、項目によっては、そこまで根拠が明確ではないものもあるかもしれませんが、やるのかやらないのかの方を大事にしてやっていきたいなど、この計画の策定においては考えながらやってきました。

ただ、2万人に関しましては、先ほど来、申し上げているとおり、客観的なデータも踏まえて、国立社会保障・人口問題研究所のみならず、昨年度から今年度にかけて民間のコンサルを利用して別の計画のために策定した数値等もありましたし、あと駅前通り線のみならず、町の開発用地であったり、今後の開発等の数字等もトータルで踏まえて2万人と置きました。2万とか切りのいいという話を最後にさせていただきますと、例えばある計画で、あれは開成町の観光客入り込み客数最初2

9万7,000人でした。これは根拠があって、計算したら29万7,000人でした。私はどうもそうではなくて、だとしたら、30万目指そうよと言って30万にしてもらいました。要は根拠も大事なのですが、やるぞと頑張っていこうよという意味合いを込めて、2万人も、厳密に計算したら1万9,800人かもしれないのですが、2万で頑張ろうと、そういう意気込みをみんなで意思統一して、1つの目的に向かって、みんなに向かっていくためということで若干切りのいい数字に、切上げ、切捨てみたいのをさせていただいた経過も、項目によってはあるということだけお伝えしています。よろしくお願いします。

○議長（山本研一）

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

今、町長が言われたことは、重々承知で、私も2万人いいではないかと思っておりますし、ただ、その今の112ページの例で言いますと、目標値の10、切りがいいところで、えいやでやったのではないかということをおし上げているわけではありません。私もそういう現場にずっといて、今はえいやという言葉は若い職員さんには通じないらしいのですが、当時は勘と経験と度胸、KKDなどということをおったりして、やはりプラスアルファでチャレンジングな目標立てて、その中で何とか新しいアイデアを絞り出して達成に向かうというようなことをやってきたのですが、その前の現状値、基準となる数値が昨年3月12日に、予算特別委員会の中で、令和4年までの進捗を聞いたときに言われた数字から、あり得ないぐらいの10%です。令和4年までの達成率で6.3という回答があって、そこから令和5年度までに、その前が年率0.4でしか進んでいないものが、一気にそんなに伸びるはずがないと。もともと7%だった数字に届くかも怪しかったのに、10はないだろうということで、そのありもしない数値を持ってこられたのではないかとということに対して、この数値の立て方を、どう、拾い方をどうなのかと疑問を呈しているわけです。目標値が丸めた数字で、下に丸めるのではなくて、上に丸める。大いに結構だと思っております。そこら辺は納得をしておりますし、その前にももちろん全て2万人からブレークダウンした数値であるということをおし回答いただいて、それも非常に納得しているところではありますが、その基準値、ありもしなかったデータを持っているというところで、全体の数値の信憑性がどうなのかという質問でございます。

○議長（山本研一）

産業振興課長。

○産業振興課長（中村 睦）

議員の質問に対してお答えします。112ページの目標値の部分につきましては、担い手の農地の集積率という部分で書かせていただいております。この部分が、もちろん根拠のない数字を12月のときの数字から現数字に変わっているという御指摘かと思うのですが、その部分で言いますと、やはり数字の根拠というのはし

っかりともちろん積み上げをさせていただいております。

では、12月のときはどういうものだったのかといいますと、いろいろ農地の集積率の部分で、もちろん町で数字を出しておりますが、県に報告するものとか、もろもろの集積率の部分がございます。今回書かせてもらったのは、担い手への農地の集積率といったことで書かせていただいておりますが、この部分で農地の全体の集積率とか、いろいろな数字を報告ものとして出させてさせていただいております。そういった中で農地全体の集積率というようなところで書かせていただいております。今回12月の議会のときにお話いただいて、担い手への農地の集積率ということで、3月お答えをした数字に、令和5年度版に合わせた形の中で数字を修正させていただいたというような形になります。数字の根拠としては、しっかりと持ってお出させていただいている形になります。

以上です。

○議長（山本研一）

10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

同じ集積率といっても、異なるちょっと指標があつて、そこがたまたま10%だったので、そちらを持ってきてしまったというプロセスだったと認識しましたが、全く同じ目標設定で、第五次総合計画にもあつたということは、本来ならその毎年その進捗を確認をして、グラフにするなりなっていないなければいけないはずで、その第五次のときのきちんと数字を検証しながら追っかけていくということができていれば、違うところから数字を持ってくるといことは、起きないのではないかと思うのです。

そういうことも含めて繰り返します。目標値が高いのは、別にそこは意気込みも含めて私はオーケーだと思います。そのぐらいのものは町長からも、もっと具体性という言葉も聞いていますから、あつていいと思っておりますが、その基になる部分はもう少しきちんとしたところをダブルチェックをしながらでも出していかないと、これが結局ベースが違えば達成にかかるコストも違って来るわけで、そこには費やされる税金の額が違ってくるといことがあると思うのです。ですから私このところはしつこく聞いているわけで、たまたまここを例にとって今、担当課から御回答いただきましたけども、ほかのところも含めて全体の目標値ではなくて、現状値はしっかりとした確認を取れたものでお願いしたいということと、これを製本するときに、またグラフを足したり、いろいろなことがあると昨日来、御回答いただいておりますので、持ってきたデータが違っていても、例えば小数第2位でそろえるとか、そういう作業をすることによって、この冊子になったときの見え方に、これも非常に大事ですから、その点についても昨日言及があつたと思いますけども、そういうところはきちっとそろっているという形にさせていただきたいと思いますが、いま一度御回答お願いいたします。

○議長（山本研一）

参事兼企画政策課長。

○参事兼企画政策課長（岩本浩二）

お答えをさせていただきます。全体の見直しの部分については、改めて検討はさせていただきます。

以上です。

○議長（山本研一）

ほかに質疑はございませんか。

9番、佐々木議員。

○9番（佐々木 昇）

9番、佐々木昇です。私もちょっと似たような、今、町長からも御回答ありましたがけれども、私も昨日からちょっとこだわっているところがありまして、以前の経緯などもありましたので、ちょっと自分なりに整理したいところがありますので、最後に1点だけ確認させていただきたいと思います。

目標値のことですけれども、私たちがどのように対応していくかということで、こちらはもうこれまで御回答いただいていますけれども、町が事業を進めていく上での方針、今、町長がお答えいただいた、あくまでも努力目標的などころというところで私たちは認識すればよいということによろしいでしょうか。

○議長（山本研一）

参事兼企画政策課長。

○参事兼企画政策課長（岩本浩二）

お答えをいたします。今、おっしゃっていただいたとおり、努力義務ということで御理解いただければと思いますし、昨日も別の同様の質問のところ、100を目指すというところは、我々としても当然最終的な目標として置いているところがございますが、現状を踏まえて、4年間なり、8年間で、ここまでは到達いたしまししょう。先ほどの町長の御答弁の意気込みも含めて、ここまで頑張ろうというようなところを踏まえて目標値設定してございますので、そこはあくまでも100%を目指さないということではなくて、一定の4年後、8年後を見据えたときに、ここまでは到達しようという目標値の設定となっているということを御理解いただければと思います。

以上です。

○議長（山本研一）

9番、佐々木議員。

○9番（佐々木 昇）

すみません。私、あくまでもこの数値とかではなくて、私は逆にこの数値、もうどんどん上げて、そこに向かって頑張っていくという考え方ですので、私たちがこれを審議を認めた後に、先日、昨日話した経緯、行政側から言われたその経緯に対して私は懸念を持っていたわけで、今、その数値に対して私たちがそれを認識したということで理解いたしましたので、ありがとうございます。

○議長（山本研一）

町長。

○町長（山神 裕）

一言だけ述べさせていただければと思います。昨日の佐々木議員がおっしゃった、賛成したのに、みたいな話は、本来あってはならないことだと思います。よって、今回仮にお認めいただいた場合でも、それぞれの項目なり、全体も含めて、どんどん、我々も当然定期的、随時の検証等はしていきますし、そこを踏まえて、PDCAサイクル等で、目標値を変えるかどうかは別として、取組を見直していく必要性ということのをこれ、環境の変化に伴ってもう相当あると思いますので、今回の御判断によらず、御指摘、御指導等いただければと思いますので、その点は皆様同様に、よろしく同様の認識をお願いできればと思います。

○議長（山本研一）

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」という者多数）

○議長（山本研一）

ないようですので、これで第六次開成町総合計画基本構想及び前期基本計画を策定することについて、に関する質疑は全て終了といたします。

続いて討論を行います。

討論のある方いらっしゃいますか。反対討論ですか。

それでは10番、山下議員。

○10番（山下純夫）

10番、山下純夫です。反対の立場から討論いたします。

第六次開成町総合計画基本構想及び前期基本計画を策定することについて、反対の立場から討論を行います。

しかしこの第六次開成町総合計画基本構想及び前期基本計画で示された広範な町政に係る計画の全てを否定するものではありません。

まず、策定に携わられた職員の皆さん、そして総合計画審議会の皆さんはもとより、町民意識調査に回答をいただいた1,186名の皆様には感謝を申し上げます。また、次代を担う児童・生徒600名に意見を聞き、町民ワークショップを開催して、広く意見を求めた手法は評価に値します。

昨日の質疑で確認した範囲でも、周産期医療の提供には、町長より難しい課題だ取り組むとの期待が持てる言葉がありました。

移住・定住策でも、東京からの流入促進をメインターゲットに据え、先住担当も置いて取り組むという方針が示されたことは、対象を絞り切れず、誰にも響かないマーケティングを展開しがちな行政の姿勢から、一等地を抜いたものと評価いたします。

その上で賛成討論としながら、気になる点にくぎを刺すのか、反対討論するのは、大変悩みましたが、それでも今回反対の立場で討論を行うことにしたのは、目

標達成度を測る指数に用いられた数字の扱いにあまりにも雑な部分が見られたからです。

12月に素案を示し、我々議員への説明、ヒアリングがなされた際に、ある指標に関して過去に示されたものと大きな乖離があることに気づき、数値を上げた上で、その信憑性に疑問があることを投げかけました。

それと今回示された議案では、指摘した数値で修正されておりました。このことで、今回の計画における目標値の策定プロセスに大きな疑問を持たざるを得なくなりました。

また、どう考えても目標達成の指標として不適切と思われるものや、基準値を示しながら目標値のない効果測定不可能なもの、人口2万人の達成に資する目標ではなく、2万人になったときにはこのくらいになるだろうという意図が見え隠れする目標値もあります。

昨日の質疑で説明を聞いて、策定プロセスに納得したものもありましたが、それでも腑に落ちないものがあることも否定できません。

同時に、数年に一度という総合計画を評価するに当たっては、我々議会も第五次総合計画の数値目標に対する達成度合いとその評価を共有し、総括する場の設定を町に申し入れるなど、町の最上位計画を審議するにふさわしい体制が取れていたのだろうか。そうであれば、こうした事態を招かずに済んだのではないかという悔いもあり、その意味で私自身にも幾ばくかの責任があるものと自覚しております。

そうした中で評価する点多々ありながら、数値の扱い1点で、反対討論を行うべきかどうか本当に悩みました。

しかし私は長く食品安全に携わっており、そこでは中身に何の問題がなくても、誤表記や表記漏れがあれば、製品回収となり、オールアウトです。そのくらい1つの言葉、数値には大きな責任があります。ましてや、今回、本計画に示された数値は、目標達成に向けて、単年度の予算立てにも影響しますがその予算とは、町民の皆さんからお預かりした血税にはほかなりません。そう考えると、今回の数字の扱いは到底容認できるものではありません。よって、本議案には反対をいたします。

○議長（山本研一）

ほかに反対討論のある方いらっしゃいますか。

1番、清水議員。

○1番（清水友紀）

さきの最後の質問の御答弁を受けて、今回、議案第4号 第六次開成町総合計画基本構想及び前期基本計画を策定することについて、反対の立場で討論させていただきます。

この総合計画は、全体を拝見しますと町民の役割など、前期の振り返りを生かして、役割分担が明確になったり、全項目にまたがるものは最後にまとめるなど、総合的に非常に評価はしております。

ただ、私が反対する理由としては、さきの質問のとおり、1点、91ページの箇

所について見直しの意図はなく、これまでの執行側の御答弁との矛盾を感じざるを得ない。というのがまず1つです。

またその理由2つ目について、91ページの主な取組です。②の市街地整備の推進、主な取組の2つ目が、早急であると感じるからです。

御答弁があったとおり、この整備という言葉には、制度設計も入るということですが、やはり具体的な建築も含まれることで、この基本計画4年間のうちには、この記載自体がこのまま進んでいくことに早急であり、不安を感じます。また、取組の1つ目の駅前通り線事業に関する整備と、また5つ目の見直しというところを含めれば、御説明があった制度設計等の実施計画には結びつけられるのではとの考えたこともございます。

詳細に申し上げますと、まず矛盾を感じたというところ、やはり質問の際にも述べましたが、これまで町長就任以降の御答弁では、1回ではありません。複数回に関して、繰り返しまちづくりの集会を行って、どんな町にしたいのか、町民との協議を繰り返したい。また勝手連のような、こういう町にしたいという住民のグループができれば望ましい。そのようにおっしゃられていたことが、主に複合施設の内容であったというのは、非常に矛盾を感じたところでした。そのような理解で聞いていたのではございませんでした。

また、県の事業認可内容ということで、これは既に土地計画など、決まっていることだという意図の御答弁もございました。その内容を覆そうという私の反対ではございません。

最終的には、やはり計画人口、可能性いっぱいの1,460人の発展した駅前になるかもしれません。ただ、この4年間という基本計画では、この記載の内容では早急過ぎると感じております。

基本計画ではありますが、都市形成という項目です。この総合計画を基に、今後20年の都市計画ですとか、個別計画がつくられていきます。この実施計画に結びつく主な取組の中に、今まで述べられてきた、おっしゃられてきた町民との協議や町民の存在がここに見られないということが、実施計画にどのように反映されるか、そこに町民が来るのか見えないうちには、この文章の記載があることを認めることはできないという気持ちです。早急過ぎるというところでした。

昨日の御答弁の中でも、1,460人になる。それはマンションかどうかはまだ分からない。土地計画や事業認可の段階でそれはまだ分からないという御答弁がございました。

また、町長からも、意に沿わずとも、これはバトンを受け取ったから、しっかりとやっていくという御答弁がございました。

そのような御答弁を受けて、この整備というのは、やはり早急であると思います。

これからこの事業に携われる町民は、町の駅前がどうなるのかわくわくしながら意見を出したり、過程を見守ることができるという、そういう勢いが感じられる町民の存在、町民のこの楽しみが感じられるような、そうした都市形成の取組、そう

した実施計画になっていくのだという想像ができる取組の記載であってほしいと思っています。

そこがこの総合計画を基につくられている今後の実施計画のことを考えますと、やはり触れられていない。なおかつ、代わりにとといいますか、新都市拠点整備の区域区分を見直す整備がされていくのだという、優先順位が、星3つと、最も高いことになっている。こちらがこれまでの町長の執行側の言葉を考えますと、町民を重視したお考えの反映とは言い難く、矛盾を感じましたので、反対の立場とさせていただきます。

○議長（山本研一）

ほかに反対討論ございますか。

（「なし」という者多数）

○議長（山本研一）

それでは賛成討論される方いらっしゃいますか。

5番、武井議員。

○5番（武井正広）

議員の皆様、私は開成町第六次総合計画基本構想及び前期基本計画を策定することについて、全幅の賛同を表明するとともに、この計画の賛成討論を行います。

この計画は、我々の未来に築く上で極めて重要であり、町全体の発展と住民の幸せのために多岐にわたる政策が盛り込まれています。

目標年次を8年先に定めたことは、変化の激しい時代における町の長期的展望としては妥当な期間設定であります。

将来目標人口の2万人は、駅前通り線周辺地区土地区画整理事業完了後の人口増加などを加味したとはいえ、チャレンジングであり、この人口減少が進む県西地区において、人口増の計画ができる唯一の自治体として、夢もあり、大いに期待したいところです。

具体的な基本計画について、1つ目は、子ども子育て政策です。産みやすく、育てやすい人口が増えていく本町について、ここをフォーカスし、出産前後からのサポート、子育て支援センターの充実、そして保護者のニーズに合った保育環境を整える。そして、小学校になってからも学童の充実など、時代に合った、そしてこれからの開成町に必要な子育て施策が盛り込まれております。安心して保護者の皆さんが働きながら開成町で子育てをしていける環境づくりを目指しております。

次に、教育の充実です。人的配置としては、現状では本町は、教育のまち開成として、県費以外の町単位でお願いしている支援員は充実しております。

今回の計画では、基本的なことですが、児童・生徒にとって学びが楽しいと思える状態を追求していきます。そして、教職員が子どもと向き合う時間を確保するための政策を推進していきます。そして、様々な教育環境の整備を行っていきます。

それ以外の分野においても、きめ細かな計画となっております。そして、この計画の中で最も大きなインフラ基盤整備、駅前通り線周辺地区土地区画整理事業、開

成町がさらなる飛躍を目指す上でも、そして2万人を目指す上でも最も大切な事業となります。

最後に、この計画を着実に実行するためには、ここにいる皆さん、そしてこの庁舎の中にいる職員の皆さんの力が何よりも必要です。重要です。

この計画には大事な点が記載されております。「持続可能な財政運営を行うために、町民ニーズに対応できる財政運営を行えるよう効果的、効率的に事業を実施するとともに、事業の選択と集中を図り、弾力性のある財政構造の維持に努めますと」この記載は初めてのことです。

行政の仕事は、先ほども述べましたが、選択と集中がしにくい、できにくい新たな事業だけが増えていく状況と感じております。職員の仕事量も年々増加していくように見えます。この状況を変えていくためにも非常に大切な方針です。

全ての事業には住民が関係しています。その中でこの方針を進めていくことは大変なことだと思いますが、開成町の未来にとって、とても大切な取組です。

この計画の策定に当たっては、公募による町民で組織された町民ワークショップ、町民意識調査、小学生、中学生を含む若者アンケート、まちづくり町民集会、パブリックコメント、そして総合計画審議会の皆様が、2年近くに及ぶ審議をしていただくなど、幅広く町民の意見を集約し、町民との協働によって策定され、町民の皆様の声を反映し、多くの議論を経て作成されたものであります。

この計画のキーワードは「ALLかいせい」です。

我々の町が直面する課題を解決し、未来に向けた発展を目指す道筋を示しています。

町民一人一人の生活の質を向上させ、開成町をよりよい町にするため、重要なステップである計画であると確信しております。

人口増を期待できるこの街の魅力、すばらしさを未来の世代に我々がバトンを渡していきましょう。

私は本計画に強く賛同し、皆様にも賛同いただきたく、ここに申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

以上となります。

○議長（山本研一）

ほかに討論のある方いらっしゃいますか。

（「なし」という者多数）

○議長（山本研一）

ほかに討論はないようですので、採決を行います。

議案第4号 第六次開成町総合計画基本構想及び前期基本計画を策定することについて、原案に賛成の方は賛成ボタンを反対の方は反対ボタンを押してください。ボタンの押し忘れはございませんね。採決を締め切ります。

（賛成多数）

○議長（山本研一）

採決の結果、賛成多数によって、可決しました。

以上で、1月随時会議に付議された案件は全て終了いたしました。

これにて散会いたします。

大変お疲れさまでした。

午前10時34分 散会

上記会議の顛末を記載し、その相違ないことを証する。

開成町議会議長

会議録署名議員

会議録署名議員